

事例2 課題を追究したり解決したりする活動の充実を図る事例

○学年 第2学年

○主な領域 (地理的分野) C 日本の様々な地域 (3) 日本の諸地域

○事例のポイント

- ①単元の構造を工夫し、「単元のまとめシート」を課題追究の見通しと追究過程の記録として活用することで、考えを深めることができるようにする。
- ②生徒一人一人が調べたことを一枚にまとめる「資料カード」を作成することで、グループで考えを共有し協働的な学習の充実を図る。
- ③ICT端末の活用を工夫し、課題を追究する際の効果的な情報収集・共有を図る。

1 小单元名 「日本の諸地域～中国・四国地方～」(5時間)

2 小单元について(略)

3 小单元の目標と評価規準

(1) 目標

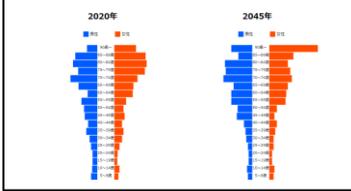
- ・中国・四国地方について、都市部と山間部や離島との間で見られる人口の偏在や、それぞれの地域での取組があることを理解する。
- ・人口や都市・村落を中核とした考察の仕方で行き上げた人口の偏在や地域の取組と、それに関する特色ある自然環境、産業の様子や、そこで生ずる課題を理解する。
- ・「人口の変化や偏りは地域にどのような影響をあたえているか。」を都市部と山間部・離島の地域の広がりや各地域内の結び付き、人々の対応に着目して、特色ある自然環境や産業の様子、そこでの人口の偏在や地域の取組と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・中国・四国地方の人口の偏在や産業の課題について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に追究しようとする。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・中国・四国地方について、都市部と山間部や離島との間で見られる人口の偏在や、それぞれの地域での取組があることを理解している。 ・人口や都市・村落を中心とした考察の仕方で行き上げた人口の偏在や地域の取組と、それに関する特色ある自然環境、産業の様子や、そこで生ずる課題を理解している。	・「人口の偏りが見られる中国・四国地方で、地域に応じた地域づくりの取組がどのように行われているのか。」を都市部と山間部・離島の地域の広がりや各地域内の結び付き、人々の対応に着目して、特色ある自然環境や産業の様子、そこでの人口の偏在や地域の取組と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	・中国・四国地方の人口の偏在や産業の課題について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に追究しようとしている。

4 小単元の指導計画・評価計画（5時間）

●「学習改善につなげる評価」 ○「評定に用いる評価」

次	学習活動等	評価の観点			評価規準（評価方法）
		知	思	態	
第一次 単元の導入 課題把握 （1時間）	課題 中国・四国地方にはどのような課題があるのだろうか				
	<ul style="list-style-type: none"> 中国・四国地方の地図を見て、自然環境を概観し、都市の分布、市町村別人口の増減率、年齢別人口構成の推移などから人口偏在の状況を捉える。 資料例 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 人口分布 市町村別人口増減率 工場の分布 交通と人口密度の変化 </div>	事例のポイント① 生徒が主体的に追究するための適切な課題設定、教材等を工夫し、生徒の疑問から課題につなげていく。	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ●人口や都市・村落を中核とした考察の仕方に基づいて設定した単元を貫く問いの答えを予想し、見通しをもって主体的に追究しようとしている。（ワークシート・単元のまとめシート）
単元を貫く問い 人口の変化や偏りは地域にどのような影響をあたえているのだろうか					
第二次 課題追究 （1時間）	課題 なぜ、山間部や瀬戸内海の島々で過疎化が進んでいるのだろうか				
	事例のポイント① 単元の構成を考えて、見方・考え方を働かせて考察できるような課題を設定する。	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ●中国・四国地方の特徴的な人口分布には、瀬戸内海、中国山地、四国山地といった自然環境や、瀬戸内工業地域の形成、交通網との関係があることを理解している。（ワークシート） ●中国・四国地方の過疎化についての課題を主体的に追究しようとしている。（単元のまとめシート）
資料例 ・徳島県上勝町の人口ピラミッド （地域経済分析システムRESASで作成）					
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  </div>					

<p>第三次 課題追究 (2時間)</p>	<p>課題 中国・四国地方の特色あるまちづくりはどのように進められているのだろうか</p> <p>① (過密地域) 都市におけるまちづくりの例 広島県広島市</p> <p>② (過疎地域) 山間部におけるまちづくりの例 徳島県上勝町</p> <p>(離島) 島嶼部におけるまちづくりの例 香川県直島町</p> <p>・①～③の中から1つの地域とテーマを選び、ICT端末で「資料カード」を作成する。それぞれの地域におけるまちづくりの取組を、インターネットや資料で調べ、ICT端末上にまとめる。</p>	<p>○</p> <p>○</p>	<p>○人口や都市・村落を中核とする考察の仕方を基に、学んできた中国・四国地方の地域的特色や生じる課題をまとめて理解している。 (ワークシート)</p> <p>○まちづくりが果たす役割を多面的・多角的に考察し、自分の意見をまとめている。 (ICT端末上のシート)</p>
<p>事例のポイント③ デジタル教科書の映像やNHK for Schoolの動画を使用し、その地域の人々の想いを映像で確認する。</p>	<p>事例のポイント② 毎時間「単元まとめシート」を活用し、随時記入していく。形成的評価を行うことで、学習に粘り強く取り組もうとする態度を身に付けさせる。</p>	<p>事例のポイント③ ICT端末を利用して、生徒の考えを大型テレビに写して学級全体で共有する。</p>	<p>事例のポイント② 映像資料やRESASで調べたことを1枚のカードでまとめ、自分の考えを可視化する。</p>
<p>都市におけるまちづくり (過密地域) 広島県広島市 テーマ「なぜ、広島市に人口と主要な産業が集中しているのか。」</p>	<p>山間部におけるまちづくり (過疎地域) 徳島県上勝町 テーマ「なぜ、人口の少ない上勝町の葉っぱビジネスは成功したのか。」</p>	<p>島嶼部におけるまちづくり (離島) 香川県直島町 テーマ「なぜ、人口減少が進む直島町で、瀬戸内芸術祭が行われ成功したのか。」</p>	<p>編P50 指導計画作成の留意事項(7)</p>
<p>第四次 (1時間) 課題解決 本時</p>	<p>課題 中国・四国地方の3つの地域は、持続可能なまちづくりにどのように取り組んでいるのだろうか</p> <p>・前時に作成した「資料カード」をもとに、課題について、グループごとにまとめ、発表する。</p> <p>・各グループの発表を聞いて「単元のまとめシート」に学習課題の解を記入する。</p>		<p>○3つのテーマを相互に関連付けるなどして、まちづくりの様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 (単元のまとめシート)</p>

第四次 (1時間) 課題解決 本時	<p>事例のポイント①</p> <p>第一次からの振り返りを確認し、まとめを書くように促す。特に、「過疎地域・過密地域」の違いに着目させる。</p> <p>・単元を貫く問いの解を「単元のまとめシート」に記入する。</p> <p>編P50 指導計画作成の留意事項(6)</p>	<p>○まちづくりの例から、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる取組を主体的に追究しようとしている。 (観察、ワークシートのまとめ、発表)</p>
	<p>事例のポイント③</p> <p>毎時間、継続的にICT端末を活用することで、情報活用能力の育成を図る。</p>	
<p>単元を貫く問いの解 (例)</p> <p>～B評価の例～</p> <p>中国・四国地方では、産業の変化や交通網の整備にともなった人口の集中や減少によって、広島などの都市部での過密化や、山間部や離島での過疎化などの問題が発生し、それに対応しようと、特色あるまちづくりの取組を人々が努力し行っている。</p> <p>学習指導要領解説より、人口や都市・村落が地域の人々の生活・文化などと深い関係をもっていることや、過疎・過密地域の問題の解決が地域の課題となることについて考察することができた生徒についてはB評価とすることが適当であると考えられる。</p> <p>～A評価の例～</p> <p>B評価の規準を満たしつつ、以下の観点について表現している生徒についてはA評価とすることが適当であると考えられる。</p> <p>〈地域の実態に応じた、地域を持続させるための取組が行われていること〉</p> <p>(例) 過疎地域では、地域的特色を生かした雇用の創出や観光集客、高齢者への就業機会の確保などが行われている。一方で、人口の集中する過密地域は住宅不足や交通渋滞が起こり、それに対して大学の移転や企業の誘致など対策を行っている地域もある。</p> <p>⇒B基準に達しない生徒への支援方法</p> <p>「単元のまとめシート」にある各時間の記述内容を参考に、重要なキーワードを使ってまとめるように助言する。キーワードをまとめたヒントカードを生徒が取り出すことのできるフォルダの中にいつでも見られるように入れておく。</p>		

5 本時の学習指導 (5 / 5 時間)

(1) 目標

- ・3つのテーマを相互に関連付けるなどして、持続可能なまちづくりの様子を多面的・多角的に考察して、表現する。
- ・まちづくりの例から、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる取組を主体的に追究しようとする。

(2) 展開

学習活動等	・指導上の留意点	観点 具体的評価規準
1 第三次のまとめシートを確認する。	・都市…広島市、山間部…上勝町、離島…直島町の地域の違いを地図上で確認する。	
<p>課題 中国・四国地方の3つの地域は、持続可能なまちづくりにどのように取り組んでいるのだろうか</p>		

<p>2 第三次に作成した「資料カード」（ICT端末に保存）をもとに、自分とは違う地域の「資料カード」を作成した生徒でグループを編成する。</p> <p>3 グループごとに、それぞれの地域におけるまちづくりの取組を話し合い、そこから見いだした持続可能な取組をYチャートにまとめる。</p> <p>4 3の資料をもとに、グループごとに持続可能なまちづくりの取組について発表する。</p> <p>5 Yチャートを作成していく過程で見い出した持続可能なまちづくりの取組から、中国・四国地方の地域的特色を自分の言葉でまとめる。</p>		<p>事例のポイント① 前時までの学習内容を生かして深めるようにする。</p>
<p>6 まとめ 「単元のまとめシート」に本時のまとめを記入する。</p> <p>7 単元のまとめ 「単元のまとめシート」に単元のまとめを記入する。</p>	<p>まとめ 3つの地域ともに、地域の実態に応じた地域を持続させるための取組がおこなわれている。 (例)・観光客を呼びこむ工夫 ・移住者を増やす取組 ・環境への配慮 ・高齢者の就業機会の確保 ・子育て世代向けへの政策 など</p>	<p>思・判・表 3つの地域の取組を相互に関連付けるなどして、持続可能なまちづくりの様子を多面的・多角的に考察して、表現している。</p>
<p>8 振り返り 振り返りを行う。</p>	<p>単元のまとめ 中国・四国地方では、産業の変化や交通網の整備にとともなう都市部での過密化や、山間部や離島での過疎化などの結果、人々の暮らしが変わってきた。 過疎・過密問題に対応するために、新しい仕事やイベントがうまれたり、まちづくりが行われたりして、地域の様子も大きく変化している。</p>	<p>主 まちづくりの例から、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる取組を主体的に追究しようとしている。</p>

6 板書計画

<p>単元を貫く問い 人口の変化や偏りは地域にどのような影響をあたえているのだろうか</p>	
<p>課題 中国・四国地方の3つの地域は、持続可能なまちづくりにどのように取り組んでいるのだろうか</p>	
<p>①広島県広島市…… なぜ、広島市に人口と主要な産業が集中しているのか 過密地域・東広島市への大学移転</p> <p>②徳島県上勝町…… なぜ、人口の少ない上勝町の葉っぱビジネスは成功したのか 過疎地域・山間部・ゴミゼロ宣言</p> <p>③香川県直島町…… なぜ、人口減少が進む直島町で、瀬戸内芸術祭が行われ成功したのか 離島・瀬戸内芸術祭</p>	<p>まとめ 3つの地域ともに地域の実態に応じた、地域を持続させるための取組がおこなわれている。 (例) 観光客を呼びこむ工夫。移住者を増やす取組。環境への配慮。高齢者の就業機会の確保。 など</p> <p>単元のまとめ (略)</p>

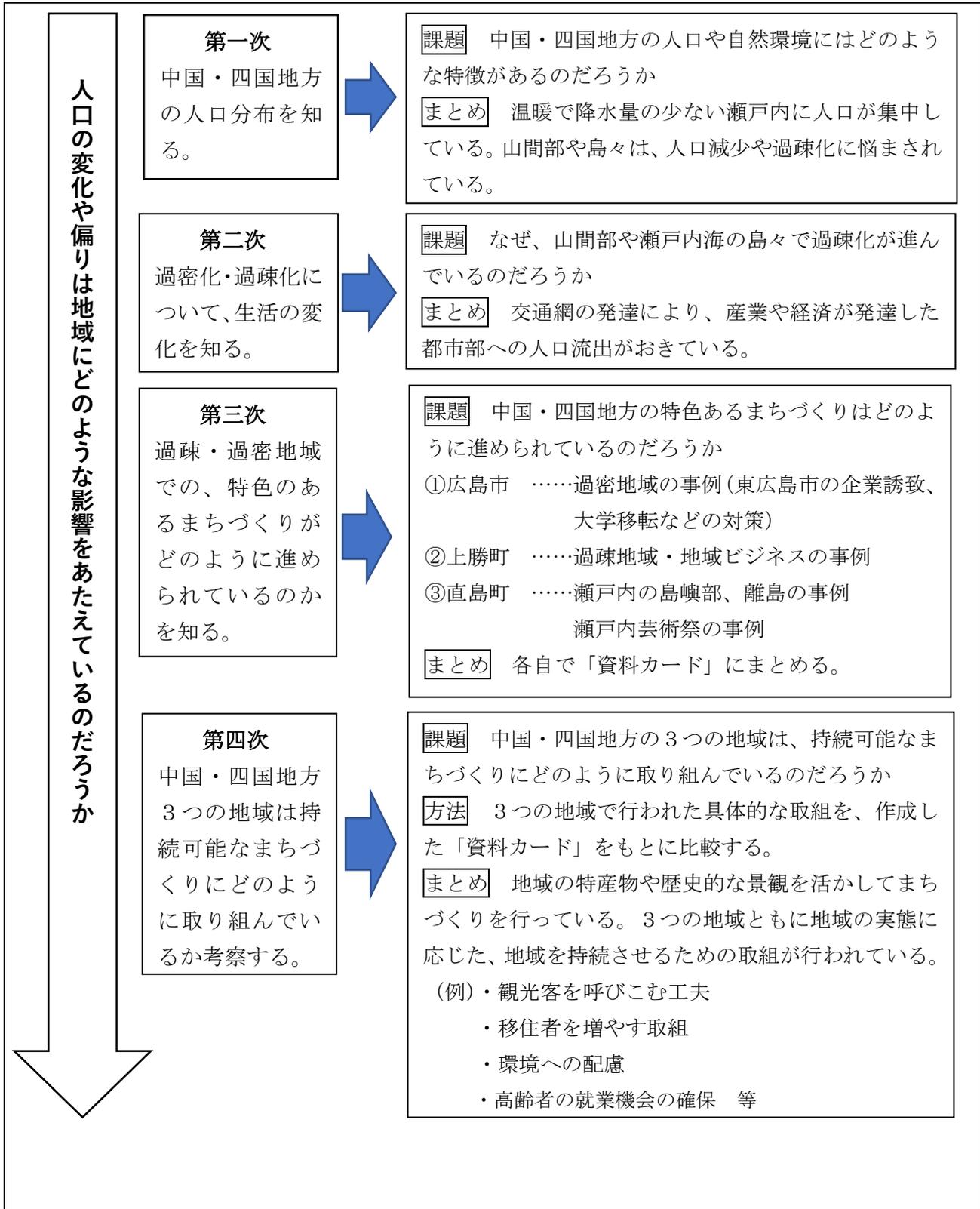
7 事例のポイントと考察

(1) 事例のポイントについて

- ① 単元の構造を工夫し、「単元のまとめシート」を課題追究の見通しと追究過程の記録として活用することで、考えを深めることができるようにする。

課題把握（課題を見いだす、動機付け、方向付け、見通し）→課題追究（情報収集と加工と読み取り、考察・表現・発信・意見交換・討論）→課題解決、新たな課題（判断、まとめ、振り返り）という学習過程を基本として、単元の学習が展開するように実践を行った。

単元構造図



身に付けさせたい概念的知識

- ・交通網の整備や交通手段の多様化により、都市部では過密化、山間部、島嶼部では過疎化が進んでいる。
- ・人口減少に伴う税収減や公共サービスの低下を抑えるために、「地域おこし」が行われる。

「地域おこし」について

- ・中国・四国地方の山間部、島嶼部ともに過疎化が進んでいる地域であり、「地域おこし」を行うことは就業者の増加、永続的な資源の管理につながる。また、教育分野での貢献や経済効果も期待され、持続可能な町であり続けるために重要な施策として取り組んでいる事業である。

本事例では、単元全体の学習に見通しをもてるように構成を工夫した、「単元のまとめシート」を作成した。また、1時間ごとの学習課題の追究で分かったこと、考えたことを記述、蓄積することで、単元を貫く問いに対する到達状況を、生徒と教師とが随時確認することができ、最後には自己の学習活動を振り返ることができるようにした。

単元のまとめシート

日本の諸地域 中国・四国地方～人口・都市・村落で変わる人々の暮らし～
【第3章 日本の諸地域】 教科書P.197～208 資料集P.150～157 ワークP.28～35

2年 組 番 氏名 _____

単元の課題人口の変化や偏りは地域にどのような影響をあたえているのか。

見通し☆学習前

中国・四国地方のイメージは？ 知っていることを書いてみよう!!

↓

振り返り★学習後

中国・四国地方のイメージはどのように変わりましたか？
学習全体を振り返ったり学習前後の自分の考えを比べたりして、思ったことや感じたことを書きましょう。

👣 学びの足跡 👣

<input type="checkbox"/> 第1時 テーマ 今日の授業で一番大切だと思う事 ----- 学びの手応え(自分の成長、感想・疑問など)	<input type="checkbox"/> 第2時 テーマ 今日の授業で一番大切だと思う事 ----- 学びの手応え(自分の成長、感想・疑問など)
<input type="checkbox"/> 第3時 テーマ 今日の授業で一番大切だと思う事 ----- 学びの手応え(自分の成長、感想・疑問など)	<input type="checkbox"/> 第4時 テーマ 今日の授業で一番大切だと思う事 ----- 学びの手応え(自分の成長、感想・疑問など)

第5時

テーマ

今日の授業で一番大切だと思う事

学びの振り返り(自分の成長、感想・疑問など)

中国・四国地方全体のまとめ

人口の変化や偏りは地域にどのような影響をあたえているのか。

理由は

学習のゴール

①中国・四国地方の地域別の気候や地形的特徴、交通網などの概要を理解している。()

②人口の変化とともに中国・四国地方の産業や都市がどう発展してきたか理解している。()

③中国・四国地方の人口分布には、どのような課題があり、どんな取り組みがなされているか理解している。()

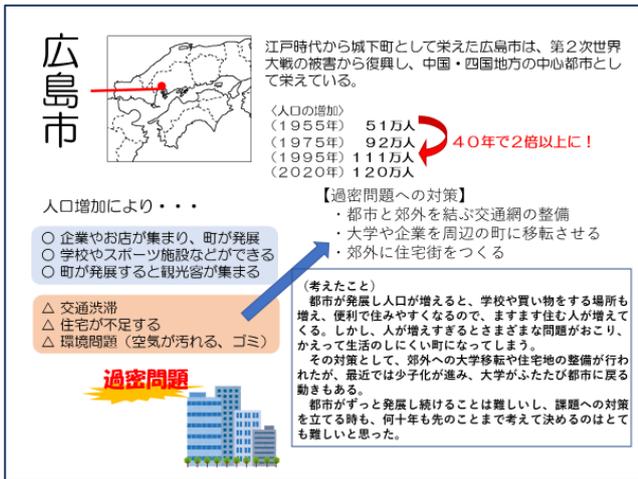
④地域おこしと地域の変化について、根拠をもとにわかりやすく説明できている。()

② 生徒一人一人が調べたことを一枚にまとめる「資料カード」を作成することで、グループで考えを共有し協働的な学習の充実を図る。

本事例では、デジタル教科書の映像（上勝町・直島町）やNHK for Schoolの動画（広島市）を使用し、その地域の人々の想いを映像で確認し、生徒が自分で調べる地域を選択した。それぞれの調べる地域に課題とキーワードを与え、何を調べてよいのか分からない生徒にも分かるように指導を行った。調べたことに加え意見やまとめを書いた1枚の資料カードを作成することで、グループでの活動の際にそれぞれの共通点や違いを比較しやすくなり、学習を充実させることができると考えた。

(資料カードの例)

<div style="text-align: center;"> <h2 style="margin: 0;">上勝町</h2> </div> <p style="font-size: small;">上勝町は、地形的には四国山脈の南東山地にあり、標高1439mの高丸山を最高峰とする山脈が重なり、東流する勝浦川は、深い渓谷をなし、その流域にごくわずかな平地が見られるほかは、大部分が山地で、山腹斜面に階段状の田畑があり標高は100mから700mの間に大小55の集落が点在しています。総面積は109.63平方km、内の約9割が山林で、そのうち83%が杉を主体とした人工林です。</p> <hr/> <p style="text-align: center;">上勝町の町おこし</p> <p style="font-size: x-small;">上勝町は、2003年に「上勝町ごみゼロ宣言」なるものを発表し、2020年までに町ごみの排出量をゼロにするという大目標を立てています。この「ごみゼロ宣言」は全国で上勝町がはじめて宣言したものであり、これに基づいた高いリサイクル率など、「循環型社会」の先進自治体としても注目を集めました。</p> <p style="font-size: x-small;">上勝町には、65歳以上の人口は女性の方が多いためその女性が活躍出来ることができ、料理を彩る季節の葉っぱや花を栽培・出荷・販売する葉っぱビジネスが有名です。ニーズさええば誰でもできるというのも葉っぱビジネスのいいところです。1986年、わずか4軒の生産者によって彩事業がスタート。初年度の売り上げは約116万円だったが、10年後には100倍を超える1億2,000万円以上の売り上げになっています。</p> <p style="font-size: x-small;">感想 上勝町は、20年近く前からリサイクルなどの取り組みをしていたから今になって、その努力が評価されるようになったんだと思いました。僕が住んでいる秩父市でもできそうではないかと思いました。</p>	<div style="text-align: center;"> <h2 style="margin: 0;">香川県 直島</h2> </div> <hr/> <p>瀬戸内芸術祭を行った利点</p> <p style="font-size: x-small;">直島の内外から来る人が増える。その近所で食事をしたり、買い物をしたり、宿泊をしたりして、お金が集まってくる。その地域が経済的に潤う。自然とアートの融合を見ることができ。文化性の高さをアピールできる。アートの島として注目を集めることができる。</p> <hr/> <p>まとめ</p> <p style="font-size: x-small;">芸術祭を開催することで、地域外から注目され、人が集まってくる。⇒町の活気が戻る！</p> <p style="font-size: x-small;">自然にふれたり、アートにふれたりなど色んなことを経験できる！</p> <hr/> <p style="text-align: center;">芸術祭を行った目的</p> <p style="font-size: x-small;">美しい自然と人間が交響してきた瀬戸内の活気を取り戻すために行われた。また、瀬戸内が地球上の『希望の海』となるように行われた。</p> <hr/> <p style="text-align: center;">芸術祭なぜ成功した</p> <p style="font-size: x-small;">建築やアート界隈でも「仲間ゴト」として瀬戸芸が語られ始め、もともと香川県にあったアートに改めてスポットライトがあたり始めた。さらに地域外からも注目され、瀬戸芸の高い評価がされるようになった。「世の中ゴト」⇒「地域ゴト」</p> <hr/> <p style="text-align: center;">自分の考え</p> <p style="font-size: x-small;">直島の魅力は、自然を生かしたアート作品があり、それに魅了されて人々が集まってくるんだと思った。直島にいつてみたい！！</p>
--	---



③ ICT端末の活用を工夫し、課題を追究する際の効果的な情報収集・共有を図る。

本事例では、中国・四国地方の情報入手するために「地域経済総合分析システム（RESAS）」等を活用した。公的機関が提供している地図や統計サイト、国や地方公共団体のホームページから情報入手し活用することは有効である。その際、授業の目的を達成するための資料の有用性や信頼性を判断できるよう指導するとともに、著作権等情報リテラシーの育成にも配慮することが求められる。以下に授業に活用できる主なサイトを紹介する。

サイト	主な内容
地理院地図	新旧の地形図や空中写真の比較、任意の地点間の断面図作成、地形図の3D表示など
RESAS	産業構造マップ、人口ピラミッド、昼間・夜間人口など (埼玉県中学校教育課程指導・評価資料 P50 参照)
e-start	統計グラフの作成、17の統計分野から統計データを探す、地図上に統計データを表示するなど (埼玉県中学校教育課程指導・評価資料 P50 参照)
Google ストリートビュー	目的の場所を探す、訪問場所までの道のりをイメージするなど
Google Earth	地球の姿、世界の国、都市の確認 (例) アメリカのセンターピボット方式の大規模なかんがい農業の様子を見る
今昔マップ	明治期以降の新旧の地形図を切り替えながら並べて表示し、比較するなど
jSTAT MAP	地域の統計情報をレポート形式で作成、統計グラフの作成、地図上での距離や面積の計測など
教科書会社HP	世界や日本国内の特色ある地域の写真資料

また、ICT端末のデータ共有機能を利用して、グループや各生徒の考えを大型テレビに映して学級全体で共有することも効果的である。生徒は他者の考えと自分の考えを比較し、新たな視点に気付くことができる。また教師は、生徒一人一人の学習状況を把握することができ、進捗状況に応じた支援を行うことができる。



(2) 実践に当たっての留意点

思考力・判断力・表現力を育てるためには、生徒の自分の言葉や表現による言語活動を充実させることが重要である。今回は、生徒自身が作成した「資料カード」をもとに発表することで、相手に自分の考えを分かりやすく伝えることができるようにした。

また、単元のまとめでの振り返りの視点として「新たな課題」を設定することができる。第一次で出たその他の疑問、身近な地域の過疎・過密問題やそれに対する対応と関連付けて考えられるとよい。

さらに、課題設定においては、パフォーマンス課題を設定することも考えられる。例えば持続可能なまちづくりを進める市民会議のメンバーとして、地域の課題を分析し、解決するための発展計画を「中国・四国地方の発展計画書」としてまとめる活動も考えられる。課題を追究したり解決したりする活動においては、単元の構造（単元構成）を綿密に考えることと、追究の手立てを工夫することが大変重要である。資料を読み取る活動はよく行われているが、本事例で「資料カード」を作成したように、資料を作成する活動もまた、生徒の協働的な学びを進める上で有効であると考えられる。